

# 緑の相談所だより

-第37号-

{12, 1月号 1995. 12. 1発行 編集: 旭川市緑の相談所}

## 講習会のご案内

### ◆洋らん・冬の管理◆

シンビジウム、デンドロビウム  
カトレア、ファレノプシスなど。

日時 平成7年12月10日(日)  
午後1～3時

講師 旭川洋らん会  
笠原幸三氏

定員 50名 参加は無料

お申し込みは  
旭川市緑の相談所 ☎65-5553

## はじめまして!

さる10月31日に旭山動物園からエゾリス5頭が贈呈され、温室横の木立の中「リスの家」で走りまわっています。

クルミを両手で抱えながら食べている姿はととても愛らしいものです。

特に朝方は元気に活動していますので、お散歩がてらお寄りになってみてください。



■お願い■クルミ、カボチャの種(乾燥させた物)など届けていただけるとうれしいです。

## 季節の花ことば

おもと(万年青)・・・母性の愛、相続

古くから「縁起草」と呼ばれ、転居の際には入居する前に移せば、方位の難を逃れられると伝えられています。

常に枯れないおもとは、草の中では最も長寿で寒さにも耐え、どんな土にもなじむ強い草で、丸い赤い実は吉兆を表すものとされ、緑の葉はそれを守るように包み込んでいます。

そんな姿が“母性の愛”といわれる所以でしょうか。  
—紅はファンタジー—



## 間違いだらけの植物いじり

### 肥料やり・・・その1

鉢植えの花が弱ってきたので肥料をやりたいのだが、庭の木が元気がないから肥料をやりたいのだが・・・といった問い合わせの電話が多くかかってきます。弱っている状況、元気の無い様子を伺った後、「肥料をあげたいですか？」と訊ねると、返事は、「いけませんか？」と「はい。」のどちらかが返ってきます。皆さんはどちらでしょうか？

植物に元気がない、植物が弱っている、と見えるときの原因と葉に現れる主な症状をあげるとおおよそ次のようになります。

- 1、病気にかかっているとき・・・葉に斑点や模様が現れ色が変わる。
- 2、害虫に侵されているとき・・・葉が退色し、吸汁や食害の痕がある。
- 3、日焼けしたとき・・・葉が退色し戻らない、重いと枯れる。
- 4、水枯れを起こしているとき・・・葉が萎れ、重いと退色せずに枯れる。
- 5、凍傷にかかっているとき・・・葉に水浸状模様ができ後に枯れる。
- 6、肥料が不足しているとき・・・葉の色が薄く小型、時に模様がでる。
- 7、徒長しているとき・・・葉が柔らかく大型、色が薄い。
- 8、根が痛んでいるとき・・・成長が止まり、葉先が変色進むと退色、落葉する。

このうち1、2、3、4、5、については誰がみても判る症状なのでそれなりの手当を施しますので、肥料を与えようとする人はいないと思います。

6、7、8、については似たところもあり迷うところですが、ここで肥料をやっても良いのは、6、のケースだけです。植物が何となく弱っているとか元気がないと感じる症状では、8、の「根が痛んでいるとき」が圧倒的に多いのです。根の痛む原因はいろいろありますがここでは省略するとして、とにかくにも、

**根が痛んでいるときは絶対に肥料を与えてはいけない**

ということです。

肥料は植物にとっては体を健全に育てる食べ物です。その肥料は根で食べるわけです。植物の根は私たちの口、食道、胃、腸に相当します。消化器官が病んでいるとき私たちはボリュームのある食物は食べないし、また食べたくてもうけつけてはくれません。根の痛んでいる植物は消化器官を患っている人間と同じです。肥料を与えれば与えるほど食べることでできない肥料成分が周りに残り、痛んだ根をますます痛めてしまいます。肥料は弱ったり痛んだりしている根が回復して、植物に勢いが出てから与えることが肝心です。特別根が痛んではいなくても植物を鉢植えにする場合は草物で生育旺盛なものや休眠中の球根を植え込むとき以外は用土に肥料を混ぜる事はしないほうがよいでしょう。

## 正月を楽しむ【ウメの寄せ植え】

ウメを使った寄せ植えは、正月だけとはかぎりませんが、ササ、フクジュソウ、ナンテンなどを配した寄せ植えは正月用として好んで使われるようです。

今年もまた是非という方は従来の配植をかえてみたり、鉢をかえたりいろいろなやり方で楽しむのも良いものですし、はじめての方は配植の基本をおぼえ、寄せ植えを楽しんでみてはいかがでしょうか。室内をかわった感覚で正月を楽しむのも格別なものです。

### ◆ウメのもともめ方◆

#### ●品 種

正月用寄せ植えの品種は早生種を使用します。市販されている早生種では白花では冬至が多く、赤花では一重寒紅が多く出ているようです。

#### ●買いもとめる時の注意

自分の好みにあった姿のものをえらび、つぼみの少ないものはさげ、病虫害（特に切り口、幹、枝に腐れの入ったものや、カイガラムシのついているもの）の被害にあったものは除きます。

#### ●寄せ植えに使う素材

落葉性花木＝ウメ（盆栽仕立て）寒ボケ

常緑性花木＝マツ類（小作りのもの）

実 も の＝マンリョウ、ピラカンサなど

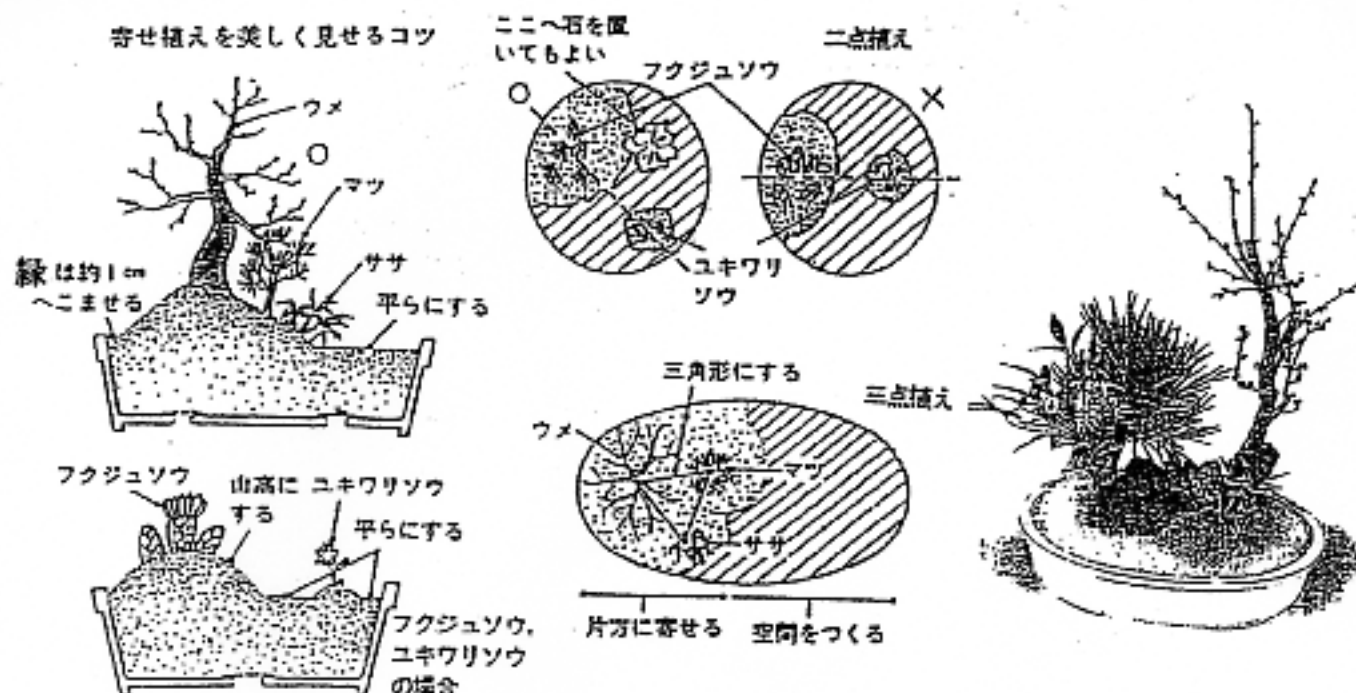
草 も の＝フクジュソウ、ユキワリソウなど

そ の 他＝ササ類、（小型のもの）ナンテン、コケ類

#### ●用 土

正月用の寄せ植えは通常の寄せ植えとはことなり短期間の観賞ですので、市販されている赤土を使い肥料、腐葉土は使いません。仕上げに化粧砂を使います。

#### ●植え方（次図の通り）



## 12月の園芸作業

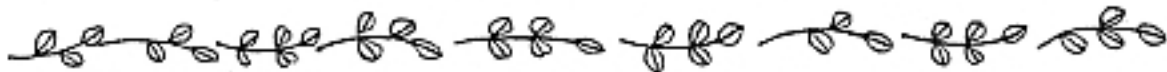
\* 露地・花壇・・・ テランセラなど室内で冬越し中の花壇の材料の親株は乾燥と光線不足に注意。

\* 鉢花・・・ シクラメン、ポインセチアなどが出回ります。室内の環境によく馴らして、出来るだけ涼しく管理すると花持ちが良い。日長が短く、陽光も弱い季節です。ハイビスカス、ブーゲンビリアなど熱帯性の花木はよく光に当てること。全般に水やりは午前中に鉢の中が乾いてから十分に与えます。鉢の表面は乾いても中が濡れているのが冬の室内の鉢物の特徴なので注意が必要。椿などの温帯性の花木も希望する開花時期にあわせて出来るだけ涼しく保ちながら管理する。クンシランはこれからの時期、十分な低温に合うことが花を咲かせる条件になります。正月用のウメの鉢物も玄関先のような涼しい環境から徐々に部屋の中へ入れて、丈夫な花を咲かせるよう心掛ける。

\* 観葉植物・・・ 日光不足、風通しの悪さ、部屋の高温等でカイガラムシ、アブラムシ、オンシツコナジラミなどの発生が見られます。ブラシで擦り落としたり薬剤を散布する。鉢に置く葉も効果的です。室内の乾燥・ほこりが大敵、暖かい日中には頭からざっぶりと水をかけてやるのも良い方法です。

\* 洋蘭・・・ 下旬には早咲きの大型シンビジューム、カトレア等が咲き始めます。いずれも室温が高いと花もちが悪くなる。カトレアは23～10℃、シンビジュームは22～5℃、ファレノプシスは25～12℃、デンドロビュームは22～8℃、パフィオペデルムは22～8℃位で管理をします。新しいバルブが伸びてきている鉢には肥料を与えますが、休眠中の株には肥料やりは禁物です。花の咲いている鉢は水やりを少し多めに、休眠中の鉢は乾かし気味にする。

\* 盆栽・・・ 冬眠中ですが時期的にお正月の飾りに盆栽が使われることがあります。特に梅の鉢物を含めてマツも縁起物として床の間や玄関先に置かれますが、温度に注意。花を咲かせたいウメ、ボケ、ツツジ等の盆栽は、月初めにはむろから出して7日から10日の間隔で徐々に暖かい室温に馴らし、光線を十分に当てて管理します。蕾の発育に従って灌水の量を多くしていきます。時々シリンジをして湿度を補給します。むろの中などの盆栽は二週間に一度位は見回りをして、鉢内の乾きに注意をする。



## 1月の園芸作業

\* 露地・花壇・・・ カタログと首引き、新しい種類やお目当ての花選びに専念します。鉛筆と紙の上での花壇作りも楽しいもの。

\* 鉢花・・・ 12月に準じて管理します。今月の要点は、

- ・最低温度を花の種類に合わせること
- ・最高温度を低めに抑えること (22～25℃位)
- ・日中と夜間の温度差は10℃位にすること
- ・日光に出来るだけよく当てること
- ・水やりは鉢の中が乾いたら十分に
- ・部屋の湿度に馴れさせると同時に部屋の湿度を可能な限り高く保つこと

徒長は日光不足と高温で進み、花芽分化を妨げます。熱帯性の花木は特に気をつけましょう。

\* 観葉植物・・・ 鉢花に準じて管理します。

\* 洋蘭・・・ 冬咲きの種類や品種は新芽を伸ばし、葉を広げて蕾か顔をのぞかせてきます。この時期は温度管理が大切なポイントになります。一般に、

・高い温度で花梗(花茎)が伸び、開花後は低めの温度で花持ちが良くなります。開花中の株は最高温度を出来るだけ低く(22～13℃)、最低温度を適切に(5～12℃)に保つことです。シンビジュームは蕾に当たる光が多いと花の色が濁ります。

\* 盆栽・・・ 正月の鑑賞用の鉢は、1日に1回は霧水をかけるようにします。出来るだけ低い温度の所で鑑賞します。花の咲いているウメなども寒いくらいの所がよいでしょう。鑑賞期間が長くなると根や芽が動き出すので注意が必要です。花の咲いた物は満開になったら花を摘み取り早く冬囲いに戻すことです。室内の鉢は乾きに注意。